【 51 】

氏名	村 上 一 郎
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1058 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科 病理系病理学（二）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	Lectin－Binding Patterns in Normal Liver, Chronic Active Hepatitis, Liver Cirrhosis, and Hepatocellular Carcinoma：Immunohistochemcal and Immunoelectron Mycroscopic Study （正常肝組織，慢性活動性肝炎，肝硬変，肝癌におけるレクチン結合性）
論文審査委員	教授 岡田 茂　教授 辻 孝夫　教授 難波 正義

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

我々は，14種のレクチンを用いてヒト正常肝組織並びに肝硬変，肝癌おけるレクチンの結合パターンについてABC法を用いて検索した。14種のレクチンは正常肝組織における結合パターンから次の4グループに分けられた。グループA：PHA，MPA，LcH，RCA－I，WGA（肝細胞，類洞3細胞，グリソン鞘内血管内皮，胆管上皮に結合がみられた)。グループB：BPA，GS－I，PNA，PSA，SBA（グリソン鞘内血管内皮，胆管上皮，クッパー細胞に結合がみられた)。グループC：UEA－I（グリソン鞘内血管内皮，胆管上皮に結合がみられた)。クループD：LBA，Lotus，LPA，SJA（肝組織内細胞には結合がみられなかった)。グループBレクチンはクッパー細胞の有効なマーカーになる可能性が認められた。免疫電顕的検索によって類洞細胞と肝細胞へのグループAレクチンの詳細な結合部位が明らかにされた。肝硬変や肝癌では正常肝細胞とは結合パターンが異なっていた。PHAの肝細胞への結合パターンは，肝硬変では膜のみへの結合性から膜及び胞体内への結合性へ変化した。LcHの肝癌に対する結合性も変化し胞体内にも結合がみられた。今回の検索でグループAレクチンは肝細胞の癌化に伴う細胞膜糖鎖の変化によると考えられる結合性の変化を示したが，このことはグループAレクチンが肝細胞の分化にするマーカーとなる可能性を示唆するものと考えた。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究はヒト正常肝組織並びに肝硬変，肝癌における種々のレクチン結合パターンを検索したものである。その結果，ある種のレクチンは肝細胞分化のマーカーとなる可能性があること，また，クッパー細胞の有効なマーカーとなるレクチンが存在することを見いだした。これはレクチンの病理学的応用について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。